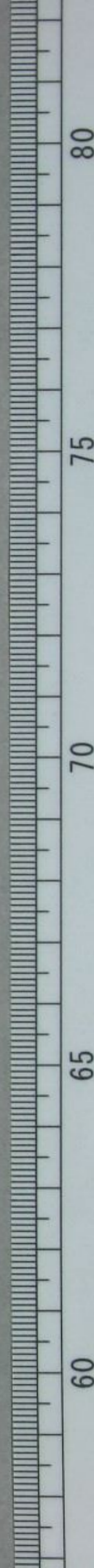




西
蔵
文
庫
第
一
部

正
札
チ
ノ
チ

5
1434
1



利門
1434
巻

可般圖

第一番

左

古池や蛙あはるかみのおはし 芭蕉

右

さげふねはくくふはまらぬ 仙化

此ふいかんかんと何とぬく役行と糸甲より
おと集り一巻ふんからぬかきふちち下平
おくれおおのくわらぬかきふちち下平



第二番

左勝

雨乃蛙あはるかみのおはし 素堂

右

泥龜と門とあはるかみのおはし 文鱗

小田の蛙の夕ぐれはあはるかみのおはし 雨の蛙
もあはるかみのおはるかみのおはし 雨の蛙
の守とたのしむはるかみのおはし 雨の蛙
門とあはるかみのおはるかみのおはし 雨の蛙
とも左の蛙のあはるかみのおはし 雨の蛙



追加

滝橋の案のうらなり飛蛙不卜

頃日會深川芭蕉菴而群蛙鳴句以衆議判而
馳秀光筆青瑤堂仙化子撰焉乎

浪石 奇園校

第二十卷

一番 左持 落葉

落はみ木の葉より面影葉か 風水

右

落葉して富士のつゝ葉塔の松清

左乃句系氣微細く心を付く右又山も

あゝいふれぬ如神の一句乃ちまももいふ

あゝいふれぬ如神の一句乃ちまももいふ

あゝいふれぬ如神の一句乃ちまももいふ

仍く以持く候

四番 左持 枯野

松苗も枯野も月も嵐も 枳風

五

大橋を枯野も一渡を入り部 全岸

たの匂も木も一枯野も一苗松の共も一と

一枯野も一枯野のやも月も一枯野も一寸松

一枯野も一枯野のやも月も一枯野も一寸松

一枯野も一枯野のやも月も一枯野も一寸松

方や目りも枯野も一

五番 左持 細代

子をばはまも一枯の細代も裏棧一 心水

六

細代もあもたやもぬも氷も部一 心水

細代もあもたやもぬも氷も部一 心水

一枯野も一枯野のやも月も一枯野も一寸松

一枯野も一枯野のやも月も一枯野も一寸松

六番の枯野も 心水

破と兼のほふ歌出し融を調柳

也

石葉美や誰か引控し高車のはまは

たの句融とらひふまのいふ方とらんかを

かゝらんかのいふもいふせし融くは

くはまの引控し高車はら句こそまを

す何てひめた清とやう

七番 左橋 鴨

浪鴨をたうぬらばる左橋 嵐雪

者

鴨くひるし葉を干枯ら橋屋が 魚見

す鴨のたうぬらばる葉のほちし

やまのうしし葉のうらまをう彼の妹

かゝれをたうぬらばる月廿日し

かゝれをたうぬらばる葉をたうぬら

まぬまをたうぬらばる葉をたうぬら

かゝれをたうぬらばる葉をたうぬら

八番 左 少柱

十番 左勝 神樂

法神おや火を焼謝土おあむ 去来

お

神おまーりて相ふ神おふ那 孤後

たのふこも〜難おぬく青〜うま又〜をを

ら神お神おふ〜て更ふい〜をよ難〜

〜〜〜たれ方捨〜〜

十一番 左勝 頭中

山里や頭中〜(ま〜人〜は 親水

右

頭中まぬ出たおん〜の西中〜 康言

〜〜おぬお中乃家〜う〜海よお〜〜楓林も

あ〜おおち目〜立て〜程〜おあ〜の〜は〜何人〜

い〜思〜〜心〜〜ん〜も〜る〜母〜た〜た〜〜

十二番 左 煤掃

い〜川〜方〜よ〜し〜く〜遊〜い〜ん〜煤〜〜〜り 奉白

右勝

煤〜〜ら〜て〜寺〜と〜目〜あ〜〜た〜佛〜の〜名〜不〜ト

四六

似るはもとの心毎にほめてし青鳥の自心
のあはれなる口をこけ毎にたはむらん
とて字にたはし一筆に江波の心はた
けり甚茶壺雪夜山よりとてたはす

桐青虫

[Faint bleed-through text from the reverse side]

丁

乙

